

《文しょうもんだい6》

文しょうもんだいを やって みよう。こたえを 文しょうの 中から みつけよう。

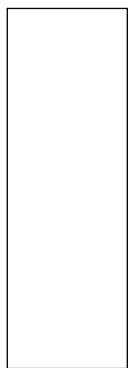
【れいだい】

つぎの 文しょうを よんで、といに こたえよう。

ことしの おしょう月、わたしに きた 年がじょうは 二十六まいでした。わたしは 年がはがきに ついて いる くじで、三とうの お年玉きっ手シートが あたりました。お年玉きっ手シートは 百本に 二本、あたるように なって いるそうです。一まいだけですが、はじめて あったので わたしは とても うれしくて その 年がじょうを くれた あきこさんに すぐ でんわを しました。

(1) わたしは なぜ うれしく なったのですか。

□に 入る ことばを かこう。



が あたったから

(2) わたしは だれに でんわを しましたか。

【こたえ】

(1) お年玉きっ手シート

(2) あきこさん

【かいせつ】

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

ことしの おしょう月、わたしに きた 年がじょうは 二十六まいでした。わたしは 年がはがきに ついて いる くじで、三とうの お年玉きっ手シートが あたりました。お年玉きっ手シートは 百本に 二本、あたるように なって いるそうです。一まいだけですが、はじめて あったので わたしは とても うれしくて その 年がじょうを くれた あきこさんに すぐ でんわを しました。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

あなたに もし ちょうのうりよくが あるとすれば、ほかの 人^{ひと}が ころの 中^{なか}で かんがえて いる ことが わかったり、見^みえない ものを見る ことが できたり、手^てで さわらないで ものを うごかしたり できるでしょう。

ちょうのうりよくを もって いると いう人は むかしから います。しかし、ちょうのうりよくが ほんとうに あるか どうか ☐ まだわかりません。

(1) ☐ に 入^{はい}る 字^じを アから ウから えらぼう。

ア ヘ
イ は
ウ を

(2) ちょうのうりよくが あれば どんな ことが できますか。 ☐ に 入る ことばを かこう。

人^{ひと}が
で

かんがえて いる ことが わかったり、

を 見る ことが でき

たり、
で

ものを
できる

(3) ちょうのうりよくが ほんとうに あるかどうか、文しょうには どう かいて ありますか。文しょうの 中から みつけて かこう。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

さむい ふゆなど 気^きおんが ひくい ときには 雨^{あめ}になる ことが なく、こおりの けっしょうの まま と ふって くる ものを ゆきと いいます。

ゆきは、くもの 中^{なか}の 水^{すい}じょう気が こおって できた こおりの けっしょうです。
だいたい、ちじょうの 気おんが れいどよりも ひくい ときに ゆきと なります。

(1) ゆきは どんな ときに ふって きますか。
アから ウから えらぼう。

ア 気おんが いちどの とき

イ 気おんが ひくい とき

ウ あたたかい とき

(2) に 入^{はい}る ことばを、アから ウから えらぼう。

ア ぱらぱら
イ ひゅうひゅう
ウ ざあざあ

(3) だいたい ちじょうの 気おんが、なんとよりも ひくい ときに ゆきに なりますか。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

ほかの 人^{ひと}が ころの 中^{なか}で かんがえて
いる ことが わかったり、見^みえない ものを
見る ことが できたり、手^てで さわらないで
ものを うごかしたり できる 力^{ちから}の ことを
ちようのうりよくと いいます。

ちようのうりよくを もって いると いう
人は むかしから います。しかし、ちようのう
りよくが ほんとうに あるか どうかは まだ
わかりません。

(1) ちようのうりよくは どんな 力^{ちから}ですか。 □
に 入^{はい}る ことばを かこう。

人^{ひと}が
で

かんがえて いる ことが わかったり、

を 見る ことが でき

たり、
で

ものを
できる 力^{ちから}

(2) ちようのうりよくを もって いると いう
人は いつから いますか。

(3) ちようのうりよくが ほんとうに あるか
どうか、文しょうには どう かいて ありま
すか。文しょうの 中から みつけて かこう。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

さむい ふゆなど 気^きおんが ひくい ときには 雨^{あめ}になる ことが なく、こおりの けっしょうの まま ぱらぱらと ふって くる ものを ゆきと いいます。

ゆきは、くもの 中^{なか}の 水^{すい}じょう気が こおつて できた こおりの けっしょうです。

だいたい、ちじょうの 気おんが れいどよりも ひくい ときに ゆきと なります。

(1) ゆきは どんな ときに ふって きますか。
文しょうの 中を さがして アから ウから えらぼう。

ア あたたかい とき

イ くらい とき

ウ 気おんが ひくい とき

(2) ゆきは どうやって できた 物^{もの}ですか。
☐ に 入^{はい}る ことばを かこう。

ゆきは、

の

が

できた もの

(3) だいたい ちじょうの 気おんが、なんとよりも ひくい ときに ゆきに なりますか。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

なつの よ空^{ぞら}に かかせない ものの 一つ^{ひと}として、花火^{はなび}が あります。花火には いろいろな 大きさ^{おお}さや かたち^{かたち}が あります。

花火に なくては ならない 火^かやくは、ちゅうごくで はつめいされました。火やくは、むかしから せんそうの ために つかわれて きましました。

火やくを、花火として つかい はじめたのは、イタリアだと いわれて います。

(1) 火やくは どこで はつめいされましたか。
文しょうの 中^{なか}から みつけて かこう。

(2) 火やくは いつから なんの ために つかわれて きましたか。文しょうの 中から みつけて かこう。

から
の ために つかわれて

きました

(3) 火やくを、花火として つかい はじめたのは、どこの くにですか。文しょうの 中から みつけて かこう。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

なつは 花火^{はなび}たいかいが いろいろな ところでおこなわれます。せんこう花火や ねずみ花火で たのしんだ 人^{ひと}も いるのでは ないでしようか。

そんな 花火に なくては ならない 火^かやくは、ちゅうごくで はつめいされました。火やくは、むかしから せんそうの ために つかわれて きました。

火やくを 花火として つかい はじめた くには イタリアだと いわれて います。

(1) 火やくは どこで はつめいされましたか。
文しょうの 中^{なか}から みつけて かこう。

(2) 火やくは いつから なんの ために つかわれて きましたか。文しょうの 中から みつけて かこう。

きました

の ために つかわれて

から

(3) 火やくを 花火として つかい はじめた くには どこですか。文しょうの 中から みつけて かこう。

《文しょうもんだい 7》

文しょうもんだいを やって みよう。こたえを 文しょうの 中から みつけよう。

【れいだい】

つぎの 文しょうを よんで、といに こたえよう。

サッカーは せかいで とても 人気の ある スポーツです。サッカーは ひとチーム 十一人で おこないます。ゴールキーパーがいはいは、足をつかって ボールを ゴールまではこびます。手で ボールを もって はこんでは いけません。

サッカーの せかい一を きめる たいかいのひとつに ワールドカップがあります。この たいかいは せかい中で 人気があります。

(1) サッカーは なん人で おこなう スポーツですか。□に入る ことばを かこう。

人

(2) サッカーで 手をつかえるのは だれですか。

(3) せかい中で 人気がある サッカーの たいかいは なんですか。

【こたえ】

(1) 十一人

(2) ゴールキーパー

(3) ワールドカップ

【かいせつ】

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

サッカーは せかいで とても 人気の ある スポーツです。サッカーは ひとチーム 十一人で おこないます。ゴールキーパーがいはいは、足をつかって ボールを ゴールまではこびます。手で ボールを もって はこんでは いけません。

サッカーの せかい一を きめる たいかいのひとつに ワールドカップがあります。この たいかいは せかい中で 人気があります。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

おまつりと きくと たのしみで、なんだか して きます。た^おく^おさんの ^{ひと}人^{ひと}が あつまつて 大^おさわぎ^おを したり、ごちそうを たべたりするからでしょうか。

おまつりは、もともとは おそなえを して、うたや おどりで かみさまを むかえるとい^う しゅうき^うようてきな ^{もの}ものでした。

おまつりの ^{ない}ない ^{くに}くにや ^{みんぞく}みんぞくは ^{あり}ありません。おまつりは、せかいの ^{かくち}かくちに ^{ある}あるのです。

(1) ☐ に ^{はい}入^{はい}る ^{ことば}ことばを ^アアから ^ウウから えらぼう。

ア ^{びく}びく
イ ^{しく}しく
ウ ^{わく}わく

(2) おまつりは、もともとは ^{どんな}どんな ^{もの}ものでしたか。☐ に ^{はい}入^{はい}る ^{ことば}ことばを ^{かこう}かこう。

を ^{して}して、

や

で

を ^{むかえ}むかえると ^{いう}いう

しゅうき^うようてきな ^{もの}もの

(3) おまつりは、^{どんな}どんな ^{ところ}ところで ^{あり}ありますか。文^{ぶん}しょうの ^{なか}なかから ^{みつ}みつ^{けて}けて ^{かこう}かこう。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

モーツァルトと いう 音^{おん}がくかを しって いますか。モーツァルトは、天^{てん}さいと いわれて います。その じだいの あたらしい 音^{おん}がくを たくさん つくったからです。なくなるまでの 三十五年^{さんじゅうごねん}かんで 六百^{ろっぴゃく}いじょうもの きよくを つくって いるのです。それは いまも のこっ て います。

モーツァルトが なくなってから 二百年^{にひゃく}いじょうが たちました。いまでも たくさんの 人^{ひと}が モーツァルトの きよくを 。

(1) モーツァルトは、なぜ 天^{てん}さいと いわれ て いるのですか。□に 入^{はい}る ことばを かこう。

その じだいの

を

つくったから

(2) モーツァルトは、なくなるまでの 三十五年かんで どのくらいの きよくを つくりまし たか。

の きよく

(3) □に 入る ことばを アから ウから えらばう。

ア きいて います

イ ばかに して います

ウ わすれて しまいました



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

おまつりが ちかく になると、わくわくしてきます。たくさんの 人^{ひと}が あつまって 大^{おお}きわぎを したり、ごちそうを たべたり するからです。

おまつりは、もともとは おそなえを して、うたや おどりで かみさまを むかえると いう しゅうきょうてきな ものでした。

おまつりの ない くにや みんなは ありません。おまつりは、せかいの かくちに あるのです。

(1) おまつりが ちかく になると、わくわくしてくるのは なぜですか。□に ^{はい} 入る ことばをかこう。

を したり、

が あつまって

を たべたり するから

(2) おまつりは、もともとは どんな ものでしたか。□に 入る ことばを かこう。

を して、

うたや おどりで

を

むかえると いう しゅうきょうてきな もの

(3) おまつりは、どんな ところで ありますか。文しょうの 中^{なか}から みつけて かこう。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

モーツァルトが なくなってから 二百年^{にひゃくねん}いじょうが たちました。いまでも たくさんの 人^{ひと}が モーツァルトの きよくを きいて います。

モーツァルトと いう 音^{おん}がくかは 天^{てん}さいとよばれて います。その じだいの あたらしい音^{おん}がくを たくさん つくったからです。モーツァルトは、なくなるまでの 三十五年^{さんじゅうご}かんで 六百^{ろっぴやく}いじょうもの 名^{めい}きよくを つくって います。

(1) モーツァルトが なくなってから どのくらい たちましたか。文^{ぶん}しょうの 中^{なか}から みつけて かこう。

(2) モーツァルトは、なぜ 天^{てん}さいと いわれているのですか。□に 入^{はい}る ことばをかこう。

その じだいの

を

つくったから

(3) モーツァルトは、なくなるまでの 三十五年かんで どのくらいの きよくを つくりましたか。

の きよく



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

よるの 空^{そら}を みつめて いると、しっぽのよ
うな せんを ひきながら、ひかって とんで
いく ものが きゅうに あらわれる ことが
あります。これが ながれぼしです。

ながれぼしが ひかって いるのは、
一^{いち}びょうほど。その ながれぼしが きえない
うちに ねがいごとを 三^{さん}かい いうと、それが
かなうと いわれて います。

(1) ながれぼしは、どんな ものですか。□に
入^{はい}る ことばを かこう。

のよう な

を ひきながら、

もの

(2) ながれぼしが きえない うちに ねがいごとを
なんかい いうと、それが かなうと
いわれて いますか。

かい

(3) □に 入る ことばを アから ウから え
らぼう。

ア かなり
イ わずか
ウ ちいさく



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

ながれぼしが きえない うちに ねがいごとを 三^{さん}かい いうと、それが かなうと いわれて います。

ながれぼしとは、よるの 空^{そら}を みつめて いると、しっぽのような せんを ひきながら、ひかって とんで いく ものです。

ながれぼしが ひかって いるのは、わずかに 一^{いち}びょうほど。だから、三^{さん}かいも ねがいごとを いうのは とても です。

(1) ながれぼしが きえない うちに ねがいごとを なんかい いうと、それが かなうと いわれて いますか。

かい

(2) ながれぼしは、どんな ものですか。 ☐ に 入^{はい}る ことばを かこう。

のよう

を ひきながら、

もの

(3) ☐ に 入^{はい}る ことばを アから ウから えらぼう。

ア こわい

イ かんたん

ウ むずかしい

《文しょうもんだい 8》

文しょうもんだいを やって みよう。こたえを 文しょうの 中から みつけよう。

【れいだい】

つぎの しを よんで、といに こたえよう。

じつと ぼくの ことを

見て いるね

小さな 手が かわいいね

だけど

なきごえは 大きいよ

はじめまして 赤ちゃん

きょうから ぼくが おにいちゃんだ

(とい) ぼくが 小さいと いって いる ものと、
大きいと いって いる ものは なんですか。

【こたえ】

・ 小さい

手

・ 大きい

なきごえ

【かいせつ】

しの つぎの ばしよに かかれて います。

じつと ぼくの ことを

見て いるね

小さな 手が かわいいね

だけど

なきごえは 大きいよ

はじめまして 赤ちゃん

きょうから ぼくが おにいちゃんだ

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

ロボットは、人^{にん}げんや どうぶつの すがたやかたちをして いる きかいです。そして、人げんや どうぶつと おなじような うごきをします。

また、人げんの かわりに、こうじょうでじどうてきに はたらく きかいも ロボットといます。

(1) ロボットは どんな すがたやかたちをして いる きかいですか。二つ^{ふた} みつけてかこう。

(2) ロボットは どのような うごきをする きかいですか。□^{はい}に入る ことばをかこう。

と

(3) ロボットは 人げんの かわりに、どこではたりますか。

ような うごき

つぎの しを よんで、といに こたえよう。

は る

のはらに きたら

一^{いち}めに タンポポが さいて いた

まるで ① みたいだ

ちようちようが

② と

おどって いる

おひさまの ^{ちから}力^{ちから}で せかいが

③ と

あたたか^くなる

(1) ① に ^{はい}入^{はい}る ことばを アから ウから

えらぼう。

ア ^{あか}赤^{あか}い じゅうたん

イ きいろい じゅうたん

ウ ^{あお}青^{あお}い じゅうたん

(2) ② に 入^{はい}る ことばを アから ウから

えらぼう。

ア ひらひら

イ だんだん

ウ ひゅうひゅう

(3) ③ に 入^{はい}る ことばを アから ウから

えらぼう。

ア ぎんぎん

イ ぽかぽか

ウ じんじん



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

人^{にん}げんや どうぶつと おなじような うごきをする きかいの ことを ロボットと いいます。ロボットは 人^{にん}げんや どうぶつの すがたや かたちを して います。

また、人^{にん}げんの かわりに、こうじょうで どうてきに はたらく きかいも ロボットと いいます。

(1) ロボットは どのような うごきをする きかいですか。□^{はい}に入る ことばを かこう。

と

ような うごき

(2) ロボットは どんな すがたや かたちを している きかいですか。二^{ふた}つ みつけて かこう。

(3) ロボットは 人^{にん}げんの かわりに、どこではたらきますか。



つぎの しを よんで、といに こたえよう。

のはらに きたら

一めんに ^{いち} タンポポが さいて いた

まるで ① みたいだ

ちようちようが

② と

おどって いる

おひさまの ^{ちから} 力で せかいが

ぽかぽかと

あたたかくなる

(1) ① に ^{はい} 入る ことばを アから ウから

えらぼう。

ア ^{あお} 青の じゅうたん

イ みどりの じゅうたん

ウ きいろの じゅうたん

(2) ② に 入る ことばを アから ウから

えらぼう。

ア ひらひら

イ たんたん

ウ ばたばた

(3) この しの だいは なんですか。 アから

ウから えらぼう。

ア はる

イ あき

ウ ふゆ



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

ぼくは いえに かえってから、学校^{がっこう}に さんすうの きょうかしよを わすれた ことに 気づ^きづきました。ぼくは、①と おもいました。ぼくは、あしたまでの さんすうの しゅくだいを まだ やって いなかったのです。

「よし。②」

そう きめて、ぼくは もう だれも いらない 学校に むかったのです。

(1) ぼくは 学校に なにを わすれて きましたか。□に 入^{はい}る ことばを かこう。

の

(2) ①に 入る ことばを アから ウから えらぼう。

ア ふしぎだな

イ さっぱりしたな

ウ こまったな

(3)

②に 入る ことばを アから ウから えらぼう。

ア しゅくだいは あきらめよう

イ おかあさんに とりに いって もらおう

ウ いまから 学校に とりに いこう



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

わたしは いえに かえってから、学校^{がっこう}に こくこの きょうかしよを わすれた ことに 気づきました。わたしは、①と おもいました。わたしは、あしたまでの こくこの しゅくだいを まだ やって いなかったのです。

「よし。②。」

そう きめて、わたしは おこられるのを かくごして おかあさんにおねがいを したのです。

(1) わたしは 学校に なにを わすれて きましたか。□に ^{はい}入る ことばを かこう。

	の	
--	---	--

(2) ①に 入る ことばを アから ウから えらぼう。

- ア こまったな
イ さっぱりしたな
ウ ふしぎだな

(3) ②に 入る ことばを アから ウから えらぼう。

- ア しゅくだいは あきらめよう
イ おかあさんに とりに いって もらおう
ウ いまから 学校に とりに いこう

《文しょうもんだい 9》

文しょうもんだいを やって みよう。こたえ
を 文しょうの 中から みつけよう。

【れいだい】

つぎの 文しょうを よんで、といに こたえ
よう。

ヤドカリは 貝がらの 中で くらして いま
す。ヤドカリは カニや エビの なかまですが、
からだは かく ありません。そのため、貝が
らに 入って からだを まもって います。ヤ
ドカリは からだが 大きく になると、あたらし
い 貝がらに ひっこしを します。からだど
いっしょに 貝がらも どんどん 大きい もの
になって いきます。

(1) ヤドカリは なにの なかまですか。二つ
みつけて かこう。

(2) ヤドカリは からだが 大きく になると、な
にを しますか。□に 入る ことばを かこう。

を
する

に

【こたえ】

(1) カニ・エビ

(2) あたらしい 貝がらに ひっこしを する

【かいせつ】

文しょうの つぎの ばしょに かかれて い
ます。

ヤドカリは 貝がらの 中で くらして いま
す。(1) ヤドカリは カニや エビの なかまです
が、からだは かく ありません。そのため、
貝がらに 入って からだを まもって います。
(2) ヤドカリは からだが 大きく になると、あたらし
しい 貝がらに ひっこしを します。からだど
いっしょに 貝がらも どんどん 大きい もの
になって いきます。

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

タンポポは はるに きいろい 花^{はな}を さかせます。そして、花が かれた あとには、白^{しろ}い わたげが できます。わたげは とおくから 見^みると 一つ^{ひとつ}の まるい ボールのよう^{よう}に 見え^みます。でも、ほんとうは 小^{ちい}さい わたげが たくさん あつまって できて いるのです。小^こさい わたげが かぜに ふかれて ふわふわと とんで いくのを みなさんも 見た ことが ある のでは ないでしょうか。

わたげの ひとつひとつには、タンポポの たねが ついて います。わたげは、かぜに のつて たねを いろいろな ばしょに はこびます。

(1) わたげは とおくから 見ると、どのよう^{よう}に 見え^みますか。アから ウから えらぼう。

ア 一つの まるい ボールのよう^{よう}に 見え^みる。
イ 小^こさい わたげが はっきり 見え^みる。
ウ ボールが くつついたよう^{よう}に 見え^みる。

(2) わたげは どのよう^{よう}に でき^{でき}て いますか。
☐ に 入^{はい}る ことばを かこう。

わたげが

あつまって

でき^{でき}て いる

(3) わたげは どうや^やって タンポポの たねを はこびますか。☐ に 入^{はい}る ことばを かこう。

に

たねを はこびます

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

みな子^この かい犬^{いぬ}の チロが ゆくえふめいになつてから 五日^{いつか}が たちました。

みな子が 学校^{がっこう}から かえると、げんかんからチロが げん気^きに とびだして きました。

「チロ。」

みな子は うれしく なつて さけびました。チロを だきしめると、草^{くさ}の においが します。チロの くびわを 見^みると きれいな 花^{はな}が いちりん はさまつて いました。いったい、チロはどこに いつて きたのでしょうか。みな子は なんだか ふしぎな 気もちに なりました。

(1) チロは ゆくえふめいになつてから どのくらいで もどつて きましたか。

(2) みな子は、なぜ うれしく なったのですか。アから エから えらぼう。

ア チロを だきしめると、草の においがしたから

イ チロが ゆくえふめいになつて いたから

ウ くびわに きれいな 花が はさまつて

いたから

エ チロが かえつて きたから

(3) チロを だきしめると、どんな においがしましたか。文しょうの 中^{なか}から みつけてかこう。

の おい

つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

タンポポは はるに さく、きいろい 花^{はな}です。花が かれると、白^{しろ}い わたげが できます。これは とおくから 見^みると 一つ^{ひとつ}の まるい ポールのように 見えます。でも ほんとうは、小さい わたげが たくさん あつまって できています。小さい わたげは かぜに ふかれて、

と とんで いきます。

わたげの ひとつひとつには、タンポポの たねが ついて います。わたげは かぜに のつて、たねを いろいろな ばしょに はこびます。

(1) タンポポは どんな 花ですか。□に 入^{はい}ることばを かこう。

い 花

に さく、

(2) □に 入る ことばを アから ウから えらぼう。

ア ぱりぱり
イ ごろごろ
ウ ふわふわ

(3) タンポポの たねは なにに ついて いますか。文しょうの 中^{なか}から みつけて かこう。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

たけしの かいねこの タマが ゆくえふめいになってから 三日^{みっか}が たちました。

たけしが 学校^{がっこう}から かえると、げんかんからタマが げん気^きに とびだして きました。

「タマ。」

たけしは さけびました。タマを

だきしめると、うみの においが します。タマの くびわを 見^みると きれいな 貝^{かい}がらが 一つはさまって いました。もしかしたら、タマは うみへ いったの かもしれせん。

(1) たけしの かいねこの 名^なまえは なんですか。

(2) ☐ に 入^{はい}る ことばを アから ウから えらぼう。

ア うれしく なって
イ かなしく なって
ウ おこって

(3) タマが いった かもしれない ばしよはどこですか。



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

日本^{にほん}には、四^しきが あります。四^しきとは、はる、なつ、あき、ふゆの 四^{よつ}つの きせつの ことです。はるは あたたく、なつは あつく、あきは ずしく、ふゆは さむいというように、きせつに よって 気^きおんが かわります。でも、日本^{にほん}のような 四^しきがない くにも あります。たとえば、インドネシアと いう くには 一年^{いちねん}じゅう、二十五^{にじゅうご}どを こえる あつい 日^ひが つづきます。また、グリーンランドと いう くには 一年^{いちねん}じゅう ゆきと こおりが じめんをおおって います。

(1) 日本^{にほん}に ある きせつは なんですか。文^{ぶん}しょうの 中^{なか}から 四^{よつ}つ みつけよう。

(2) 一年^{いちねん}じゅう 二十五^{にじゅうご}どを こえる あつい くには どこですか。

(3) 一年^{いちねん}じゅう ゆきと こおりが じめんをおおって いる くには どこですか。

--

--



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

日本^{にほん}には、四^しきが あります。四^{よつ}きとは、はる、なつ、あき、ふゆの 四^{よつ}つの きせつの ことですよ。はるは あたたく、なつは あつく、あきは すすしく、ふゆは さむいというように、きせつに よつて 気^きおんが かわります。

でも、せかいには、日本のような 四^{よつ}きが なくにも あります。たとえば、グリーンランドという くにでは、一年^{いちねん}じゅう じめんが ゆきと こおりで おおわれて います。また、インドネシアという くにでは、一年じゅう、気^きおんが 二十五^{にじゅうご}度を こえる あつい 日^ひが つづきます。

(1) 日本には 四つの なにが ありますか。

(2) グリーンランドは どのな くにですか。□に入る ^{はい} ことばを かこう。

一年じゅう じめんが

と

で おおわれて いる

くに

(3) インドネシアは どのな くにですか。□に入る ことばを かこう。

一年じゅう 気^きおんが

を

こえる

が つづく

くに